

## 新しい技術を活用したサービス部会における検討について

1 29期協議テーマ「都立図書館ならではのサービスを考える」の協議視点に基づく検討  
来館者・非来館者に関わらず、都立図書館が保有する情報資源が一層活用されるよう、新しい技術を活用した都立図書館だからこそ提供可能なサービスについて協議を行った。

### 2 新しい技術を活用したサービス部会の検討で留意した点

- ・長期的な検討では技術の進展に遅れをとる可能性があるため、短期的に実現できるサービスを中心とした協議とする。
- ・図書館における様々なサービスのうち、レファレンス、蔵書活用、その他の新たな機能、の3点を中心に、比較的利用の少ない若年層の利用も意識しながら協議する。
- ・28期提言では「実施までに十分な検討が必要な取組」としていたものについても、「平成30年度都立図書館のニーズに関する実態調査」及び実現までの時間を考慮し、検討対象とする。

→検討結果 資料2「第1回新しい技術を活用したサービス部会検討のまとめ」参照  
(以下、「部会まとめ案」とする。)

### 3 第2回定例会における検討ポイント

- ・「部会まとめ案」に対し、上記1及び2に対応しているかどうか
- ・「部会まとめ案」に対し、次の視点に基づく課題や留意点、修正・追加点等について

|       |  |
|-------|--|
| 目的    | 「都立図書館らしさ」(都立図書館が取り組むべき内容か)があるか<br>区市町村立図書館や国立国会図書館の役割・サービスとの差異はどうか    |
| 利用者   | どのような利用者を対象としているか<br>若年層の利用を想定した場合どうか                                  |
| 実現可能性 | 短期間【2-3年後(令和4年度ごろまで)】に実現可能かどうか   |
| 留意点   | サービスの開発、提供にあたりどのようなことに留意すべきか   |
| 費用対効果 | 既存リソース(蔵書やデジタルコンテンツ等)の活用が図られているか<br>過大な費用を必要としないか                      |
| その他   | 利用者ニーズ(「平成30年度都立図書館のニーズに関する実態調査」の結果※)<br>等を意識したものであるかどうか<br>将来的な展開はどうか |

※「平成30年度都立図書館のニーズに関する実態調査」潜在ユーザーが「充実・強化を希望するもの」

